

令和元年度 岐阜東学術研修会

日時： 令和2年2月16日(日)13:30~16:30

会場： アピセ・関/関市勤労会館2F第1研修室

演題； 1 入れ歯師の歩み

2 ギージー教授による総義歯調整法(DVD字幕放映)

講師： 岐阜東支部 可児 光弘会員

1 入れ歯師の歩み

我が国独自の木床義歯(木彫り義歯)は、何時頃から作り始めたのかは、未だ明かされていないが、現存する最古の入れ歯より以前、15世紀頃から既に類似の入れ歯制作が可能であったといわれている。

この頃口中医は、口内治療はするが入れ歯作りをしなかったといわれ、入れ歯師は、入れ歯作りはするが、医学教育を受けていなかった。

木床義歯の制作は、仏師や能面師のてなぐさみから生まれたと伝えられているが、義歯を口腔粘膜に密着させ、咬めるようにするという発想を、歯学を知らない人たちによって考えられたことは、驚きである。

室町時代後期から江戸時代初期には、入れ歯作りを専業とする者がでてきて、彼らを「入れ歯師」・「口内入れ歯師」・「入れ歯渡世者」とよばれていた。

入れ歯師に成る為には、仏師修行の影響と思われるが、老巧な親方に師事し、修業で身に付けた独自の技術は、秘伝として伝承された。

江戸時代には、全国で営業するようになり、庶民の口内治療者として親しまれましたが、近代医学の発展と共に、歯学を伴わないことで、明治後半には終焉を迎えた。そして、歯科技工士の嚆矢・松岡万蔵氏が専門職への道を拓いた。

岐阜県下でも、正規の歯科医療者が居なかった時代の明治初期頃まで、入れ歯師や香具師により、現在の歯科の如き仕事が行われていた

今回は、識者等の文献から歯科技工士の祖について調べてみました。。

2 ギージー教授による総義歯調整法(DVD：字幕放映)

(1929年 昭和4年・G y s i f i r mより)

チューリッヒ大学教授 アルフレッド・ギージー先生の総義歯調整法が記録されています。現在と比較してみただければと思います